

古河機械金属の成長戦略

当期の市場動向と業績を どのように分析されていますか。

当期は、機械事業については増収増益となり、黒字転換することができたものの、東日本大震災や原発事故の影響があった金属・電子材料事業の減益分を補うまでに至らず、当社グループの連結業績は減収減益となりました。



今後も厳しい経済環境は続きますが、引き続き基本方針として「機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進」と「新製品の事業化に向けた開発の促進」を戦略課題と位置づけ、中長期的な成長戦略に基づいた経営を進めてまいります。

リーマンショック以降、世界経済は大きく変貌し、経済成長の中心が先進国から資源国および新興国にシフトしつつあります。一方、為替市場では厳しい円高の状況が続いています。このような経営環境を踏まえ、当社グループは、ロックドリル事業を中心に新興国への展開を強化してきました。機械事業においては、こうした反転攻勢の土台が着実に整備されてきていることに加え、国内の復興需要も重なって、回復への手ごたえを感じ始めています。

機械事業の成長戦略をお聞かせください。

産業機械、ロックドリル、ユニックの3事業ともに、国内では復興需要がしばらく続き成長を下支えするものとみております。しかし、本格的な成長に向けては、やはり海外需要への対応がカギとなりますので、引き続き新興国を中心に、インフラ、鉱山開発、運搬という社会の必須分野で事業展開を加速してまいります。

海外展開が進んでいるロックドリル事業では、リーマンショックを境に事業環境が大きく変化し、2006年度は海外売上上の60%が欧米向けでしたが、2011年度は海外売上の65%をアジアなど新興国が占めている状況です。足元では欧米も回復しつつありますが、活況な新興国への展開を強化すべく、2011年度はアジア、中南米、アフリカなどに営業・サービス拠

点を整備しました。今後は、これらの拠点を活かして、現地のニーズに適した戦略製品を準備し、拡販していく予定です。

また、ユニック事業においても、販売が伸びているロシアの他、新興国を中心にグローバル展開を強化していきます。

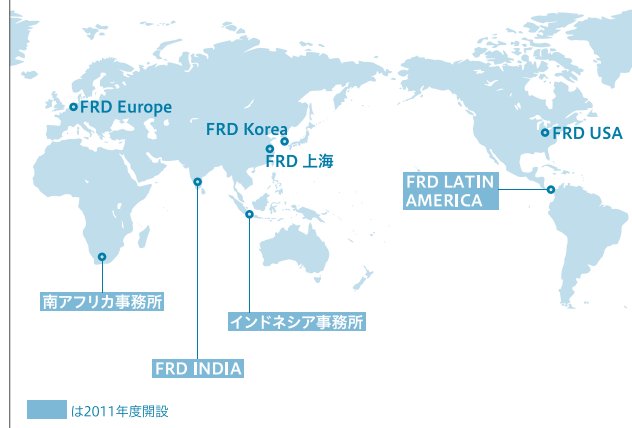
FOCUS

ロックドリル事業 — 新興国への展開 —

新興国への展開を強化すべく、2011年11月にインド、2012年1月には中南米市場への玄関口となるパナマに、それぞれ現地法人を設立しました。加えて、インドネシアや南アフリカにも事務所を開設しました。

インドでは、急速な経済発展を背景にインフラ整備、鉱山開発などの公共投資が活発に行われています。また中南米は、チリ・ペルーなどの資源供給国で鉱山投資が活発化しているほか、ブラジルでは2014年のサッカーW杯、2016年の五輪開催に向けてインフラ整備が進むなど、成長が期待される地域です。この両地域に現地法人を設立したことで、インドおよび中南米向け製品・部品の在庫管理を現地で行う体制が整いました。今後は、こうした現地法人や海外拠点を軸に納期短縮やアフターサービスの強化を図り、新興国市場でのさらなる拡販を目指していきます。

ロックドリル事業の海外拠点



基本方針の一つである 「新製品の事業化」において 期待できるものはありますか。

具体的に成果が上がっている事例としては、電子材料事業のコイル製品が挙げられます。様々な電子部品に使用されるコイル製品のなかでも、当社は自動車メーカー様との長年の実績に裏打ちされた車載向けコイルを強みとしており、自動車の電子制御化の拡大に伴い出荷を伸ばしています。また、自動車業界の環境対応車への展開は、新たに開発したリアクトルなどによって今後の追い風になると考えています。

さらに、将来楽しみなものとしては、次世代半導体材料として

パワーデバイス向けに開発している窒化ガリウム基板(→詳細はP13をご参照ください)や、熱エネルギーを電気に変える熱電変換材料などがあります。熱電変換材料は、自動車排熱の有効利用技術として期待されており、2025年の米国の燃費規制強化も見据えて引き合いが増えています。

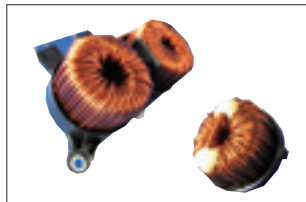
このほか、シンチレータ結晶の応用として、LuAG結晶を用いた次世代乳がん検診装置(PEM装置)の開発を進めています。現在、臨床試験中で、薬事申請も準備しています。また、GAGG結晶を用いた放射線測定器の開発にも注力しています。

このように、種をまいてきた技術や製品が、事業化に向けて育ってきています。まだ時間がかかるものもありますが、将来的に成長が期待できる製品も多く、確実にものにしていきたいと考えています。

FOCUS

電子材料事業 — コイル事業の拡大・強化 —

当社グループでは、コアを自社生産できる技術を活かし、電子制御化が進む自動車部品向けのコイル製品を中心にコイル事業を展開しています。電動パワステ(EPS)用フィルタコイルではすでにトップシェアを有しているほか、プラグインハイブリッド車(PHV)の充電器向け大型リアクトルや、新たに開発した直噴エンジン制御ユニット用表面実装(SMD)コイルなど、今後需要拡大が見込まれる環境対応車向けの製品開発にも注力しています。今後も、車載分野で得た信頼と実績を活かし、電子材料事業の柱の一つとしてコイル事業を拡大・強化していきます。



EV・PHV充電器用リアクトル



表面実装(SMD)コイル

発祥事業でもある金属事業については、 いかがでしょうか。

中国やインドなどの経済成長に伴い銅価格の高騰が続くなか、鉱山会社から支払われる製錬加工賃は抑えられ、製錬会社にとっては非常に厳しい経営環境が続いています。当社はこれまでも、銅鉱石の安定確保のため、インドネシアやカナダの鉱山に投資してきましたが、近年はさらに価格高騰のメリットも享受するため、新たな鉱山投資を行っております。今後もさらに、鉱石ならびに鉱山権益確保を目的に、投資案件を注視していきます。

最後に株主に向けたメッセージを お願いします。

不透明な市場環境下においても、当社グループは業績回復への足取りを強めつつあります。当面は「機械事業」を牽引役として着実に業績回復を目指しながら、新素材の開発・事業化を急ぎ、将来の成長に向けた事業を育ててまいります。

株主の皆様には引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

FOCUS

金属事業 — 鉱山投資について —

新興国における経済発展とインフラの整備に伴い、今後も世界的な銅需要の拡大が予測されています。こうした市場環境を見据え、当社グループは、カナダ・ハックルベリー鉱山やインドネシア・バツヒジャウ鉱山に出資してきました。さらに2010年には、カナダ・ジブラルタル鉱山への出資も実施し、2011年にはジブラルタル鉱山及びハックルベリー鉱山の拡張工事への投資を進めるなど、海外での鉱山事業に積極的に取り組んでいます。これらの投資は、安定的に鉱石を確保することに加えて、銅価格高騰を受けてのリターンが得られることから、当社グループの業績に貢献しています。



ジブラルタル鉱山(カナダ)